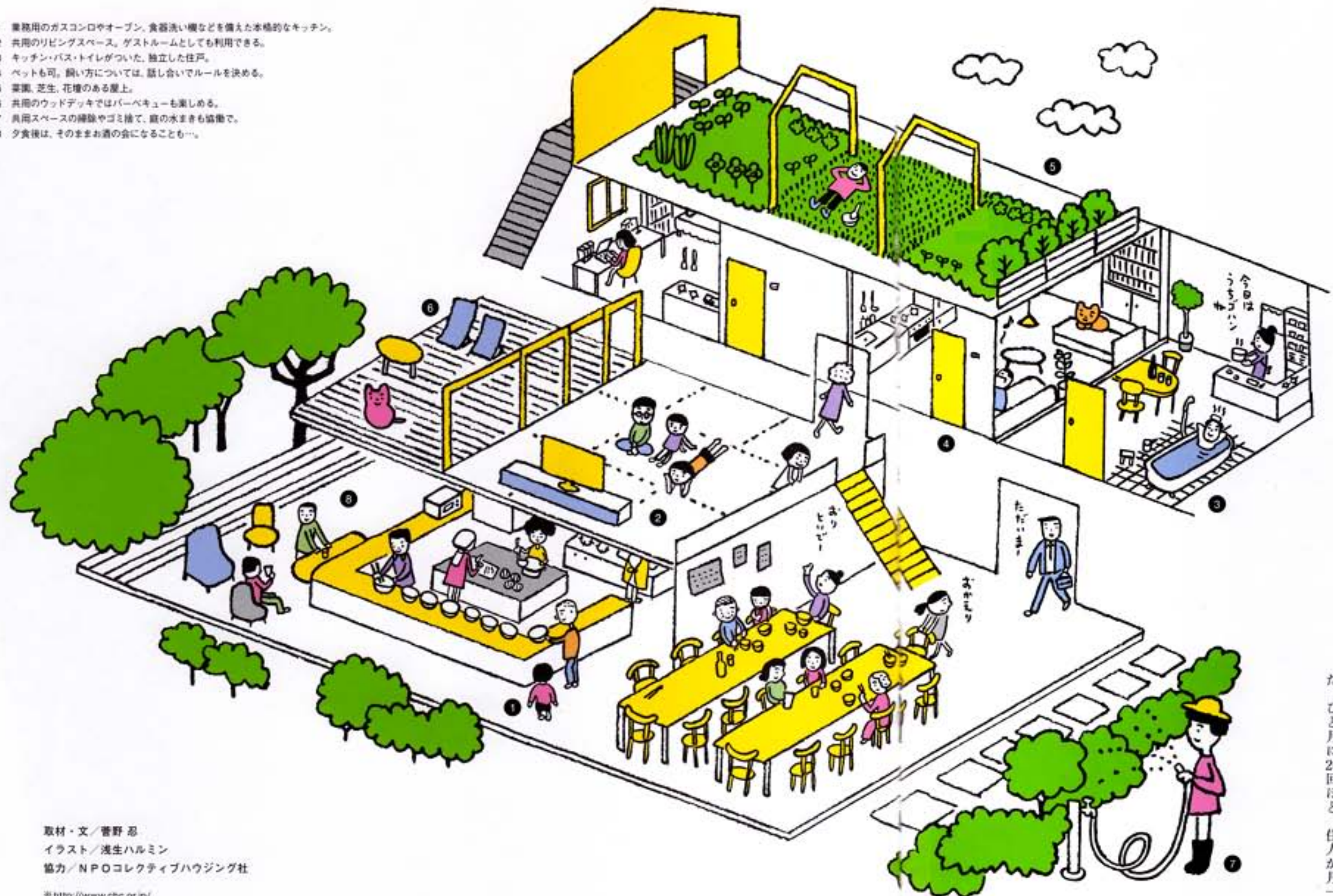


未来の長屋暮らし。 「コレクティブハウス」 という住まい方。

社会の高齢化、一人暮らし世帯の増加が進む2020年。人々はもう一度、人とのつながり、地域とのつながりを求め始めるだろう。昔ながらの長屋住まいのよさを、現代の新しい方法で実現した「コレクティブハウス」。そこには、懐かしくて新しい、未来の住まい方が見える。



- 1 業務用のガスコンロやオープン、食器洗い機などを備えた本格的なキッチン。
- 2 共用のリビングスペース。ゲストルームとしても利用できる。
- 3 キッチン・バス・トイレがついた、独立した住戸。
- 4 ペットも可。飼い方については、話し合いでルールを決める。
- 5 菜園、芝生、花壇のある屋上。
- 6 共用のウッドデッキではバーベキューも楽しめる。
- 7 共用スペースの掃除やゴミ捨て、庭の水まきも協働で。
- 8 夕食後は、そのままお酒の会になることも。

未来に向かって昔に帰る

午後7時過ぎ。吹き抜けの気持ちのいいダイニングルームに次々と人が集まってくる。小さな子どももいれば年配の人もいる。大家族？いえいえ、ここは「コレクティブハウス」というスタイルの集合住宅。各世帯が独立した住戸に住みながら、それとは別にキッチンやリビング、ランドリーなど、様々な共用スペースを持つことで、住む人同士が緩やかな関わり合いを持って暮らすことのできる住まい方なのだ。東京都多摩市にある「コレクティブハウス聖蹟」。今日は「コモンミール」と呼ばれるみんなで晩ごはんを食べる日だ。ひと月に20回ほど、住人が月一

回の持ち回りで料理を担当する。参加は自由で、事前予約制。当番の日にはちょっと大変だが、一人帰ってあたたかいごはんとお話があるところがある。もちろん、一人がいいときは、部屋に持ち帰って食べてもいい。

60代の一人暮らしがいる。20代から40代の子育て夫婦がいる。20代30代のルームシェアがいる。世帯構成もいろいろ。世代もいろいろ。そこが、いいところ。子どもは親以外の大人や他の子どもたちとの生活のなかで社会性を身につける。子育て世代は育児の不安を相談し、共有できる。年配の人たちは若い人たちと暮らすことで、精神的なハリを得る。普通に生活していたら出会えなかった、新しい人とのつながり。血縁はないけれど、かけがえのない関係が育まれていく。例えばコモンミールでは、若い世代が上の世代の料理の味や技を学んだりする。それって、昔は、普通に親子の間で行われていたことではないか。

話し合うことから、住むことは始まる

入居者は、実際に住み始めるまでに何度もワークショップを重ねる。そこが新しい。どんな暮らしがしたいのかという思いを共有すると同時に、

に、人それぞれ意見や価値観が違うという事実を改めて受け止める土台をつくっていく。他人との関わりが希薄な人たちが、話し合う術を学び、お互いの信頼関係を育んでいくための大切なプロセスだ。入居して実際に暮らしが始まってからも、それぞれの生活が交差する以上、何かしらの問題は生まれる。けれど、お互い話し合えば何とかなると思えるメンタリティを持っていけば、人間関係の心地よさは全然変わってくるのだという。

賃貸住宅であるメリットも大きい。そこを出て行くという選択肢も考えられるからだ。所有しないことで、資産意識に縛られることなく日々の暮らしとクリアに向き合える。より自由な住まい方が考えられるわけだ。屋上の庭に、野菜が育つ。そんなハウスの暮らしが、住む人の息づかいと共にブログで紹介されている。読む人が追体験しながら入居を考える感覚も、2020年には当たり前のことなのだろう。

60代の一人暮らし女性は言う。「家に帰って『おかえりなさい』と迎えてくれる声のなんとあたたかいことか」とてもリアルな声だと思う。10年後、日本の住まい方のまんなには、こんな集合住宅があるのではないだろうか。

取材・文 / 菅野 忍
イラスト / 浅生ハルミン
協力 / NPOコレクティブハウジング社

※ <http://www.chc.or.jp/>